

## APHS 2023 学会参加報告

JA 北海道厚生連遠軽厚生病院外科 大谷将秀

この度、日本ヘルニア学会「APHS Scholarship 2023」に選出頂き、2023年9月21日から23日までマレーシアのペナン島で開催された 18th Annual International Congress of the Asia Pacific Hernia Society に参加致しました。

今回のテーマは「Doing Hernia Perfectly Together」であり、アジアを中心とした 20 カ国以上から 800 名以上が集う大きな学会でした。

今回参加したのは、eTEP 等の腹壁ヘルニアに対する内視鏡手術について相談させて頂いている四谷メディカルキューブの今村清隆先生に誘って頂いたことがきっかけでした。また、インターネット検索で抽出される腹壁ヘルニアの手術動画はアジアからの発信が多いこともあり、アジア圏のヘルニア手術に興味がありました。しかし、それらの情報は断片的であり、各術式に対する周囲の反応も感じ取れなかったため、学会に現地参加してアジアでのヘルニア診療の現状を学んでみたいという気持ちが強くなり応募致しました。

初日の Pre-Congress では eTEP に関するワークショップを受講し、腹壁解剖や手術セッティングから日本では使用できないボツリヌス毒素製剤の使用法まで、短時間でしたが網羅的に学ぶことができました。午後は、今村先生が講師の内視鏡下縫合ワークショップをお手伝いさせて頂きました。ドライボックス練習が未経験の受講者に英語で教えるのは難しく、とても良い機会となりました。学会 2, 3 日目もなるべく教育的な内容のセッションを中心に選択してエキスパートによるプレゼンテーションを聞き、目的であったアジアにおけるヘルニア診療の現状を肌で感じる事ができました。また、学会中は国内外のヘルニア診療の第一線でご活躍されている多くの先生と直接ご挨拶させて頂ける機会も多く、現地参加の醍醐味を十分に感じる事ができました。

なお、私の演題発表に関しては e-Poster でしたが、会場に 3 台の閲覧用 PC があるだけで現地発表する時間は設けられておらず少し残念でした。日本からの先生方が口頭発表されている姿を見て刺激を受け、今後の目標になりました。

今回の学会参加を通じて、ヘルニア診療に関わる知識や技術とともに、特に地方で診療している医師にとって、積極的なネットワーク作りによる情報収集および情報発信の重要性など非常に多くのことを学ぶ機会となりました。この経験を活かして、北海道の地域医療と向き合いながらグローバルな診療を目指して日々精進して参ります。

今回、このような貴重な機会を与えてくださいました日本ヘルニア学会理事長の蜂須賀丈博先生、国際委員会委員長の三澤健之先生をはじめ関係各位に深く御礼申し上げます。また、お誘い頂いた今村清隆先生、学会中に初めてお会いしたにも関わらずあたたかく迎えて下さった皆様に深く感謝申し上げます。